

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400671		
法人名	有限会社ジョイケアサービス		
事業所名	グループホームジョイ		
所在地	岐阜県羽島市堀津町横手1丁目36番地		
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果市町村受理日	平成28年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2170400671-00&amp;PrCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2170400671-00&amp;PrCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成28年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『生き活き』『認め合い支え合い』を理念として、日々の生活の中で一人一人のペースを大切に、生き生きと活動ができるよう支援しています。入浴の時間でもできる限り、本人の習慣や希望に添えるように設定しています。起床時間にも幅がありそれぞれの生活時間を大切にした援助を心掛けています。職員は事業所と同じ町内の人が多いこともあり地域の行事に参加しやすく、周囲の住民の理解も得られています。事業所の恒例の行事として利用者の家族、元入居者、ボランティア等を招き、毎年夏には広いテラスを利用してバーベキューを、お正月には室内で焼きパーティーを開き利用者と一緒に楽しむ機会となっています。職員の勤務時間について、個々の事情や立場に合わせられるよう多様性を持ち、働きやすい環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のできることを認めて、できないことを支えるケアを一人ひとりに合わせ生き活きと暮らせるように支援している。系列事業所との交流も多く音楽・習字・体操教室に欠かさず参加し、利用者の生きがいにもつなげている。事業所の日課を強いらず食事時間や入浴時間も個々に合わせて対応している。地域の行事には車イスの人も一緒に参加し、住民と一緒に事業所の広いベランダでバーベキューや焼き焼パーティーをするなど地域とのつながりを深めている。利用者の今を支えたい思いで、どうしたら叶えられるかを職員全員で考え、生活がより良くなるように取り組んでいる。利用者と職員が、みんな支えあふ事業所にと職員体制も配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として『生き活き』『認め合い支えあい』を職員や訪れた人にわかるよう玄関に掲げている。利用者が生活の中で生き生きと活躍できる場面づくりを心掛けている。	職員は利用者がその人らしく生き活きと暮らせる場を作るように努めている。利用者のできる事を活かして、できない事を支える介護につなげている。申し送りやミーティングで確認し話し合っ、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、回覧板の回覧、ゴミ当番を引き受けている。また、町内の役員も務めたこともあり地域の中の一員として交流している。	地域の運動会・文化祭・老人会・クリスマス会等の行事への招待状が届き、利用者と共に参加し交流している。事業所の取組みを紹介した便りを毎月発行し、近隣住民にも配布して、つながりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ町内の人々は事業所の存在を認識しており認知症についての相談を受けたことがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月に実施しており、事業所の行事や利用者の様子について報告を行っている。	会議に警察官や消防署職員の出席も得て、報告等を行い、外部評価結果も報告している。防災対策やマニュアル作成の意見ももらっている。開催通知や議事録も送付しているが家族の参加がない。	会議案内に家族の協力が得られそうなテーマを付加したり、出席しやすい日程を組み込んだりして参加が得られる方法の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の一員として参加をしてもらっている。スプリンクラーの設置に関わる補助金についても相談、助言を受けて実施に至った。	代表者は他事業でも実情を話す機会があり、困ったことがあれば、その都度相談している。介護相談員派遣制度の利用や生活困難者も受け入れて協力関係を築いている。メール交信や市の会議等で情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関の施錠は行っていない。身体拘束についての研修も実施し職員に周知し徹底している	身体拘束について年に3・4回事業所内研修を行っている。毎月のミーティング時に言葉による拘束を含め、全員で確認し検討している。玄関等の鍵かけはせず、外出願望の利用者には、さりげなく付き添い見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての事業所外研修に代表をはじめとして管理者、職員にも受けさせ虐待につながる行為についても防止できるよう努めている		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を利用していた入居者がいたことにより制度についての認識を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には契約書を説明し、理解できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社協による介護相談員派遣制度を利用している。毎月2人の相談員が来訪し利用者と話をする機会を持ち利用者の意向をくみ上げている。	家族の来訪時に、職員は必ず声かけし意見や要望を聞くよう努めている。来訪が少ない家族には電話をかけた手紙を送り要望を聞いている。意見や要望は、どんな方法ならばできるかを話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表も管理者も職員と同じシフトに入っており、職員の声を聞きやすい環境にいる。	管理者は事業所や自宅などで意見や要望を聞いたり、電話での要請にすぐ対応したりして、言いやすい関係にしている。行事・レクリエーション・調理等に職員の得意な分野を活かした担当を決め、運営に取り込んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も介護職として一緒に働き、従業員とのコミュニケーションがとれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所は岐阜県グループホーム協議会や日本認知症グループホーム協会に所属しており、各種研修を職員に知らせ参加を呼び掛けている。事業所側から復命研修として参加も実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年同じ地域の複数の同業者と一緒に合同研修を持っている。3月には介護感動事例発表会も実施しており積極的に交流し、学ぶ機会を持っている。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず利用者の自宅や入院先を訪問し本人と家族に面談し本人と家族の要望や意向を聞く機会を持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には相談の段階から何度も面談を重ね、現状を把握し相談に乗っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた段階で必ずしも入居を勧めるのではなく在宅での生活が可能であるかを検討して助言をしている。必要であれば同法人の居宅介護支援事業所につなげることも実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員と一緒に、掃除・洗濯物干し・食事の準備や片づけを協力して生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事に家族も参加していただく声掛けをして、交流を持っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設入所中の母親の面会に行ける支援をしている。また、家族と喫茶店に出かけられたり家庭内の行事に出かけたりしている。	利用者個々の馴染みの人や場を把握し、家族や友人等の協力も得て支援している。馴染みの友達がいる体操教室や習字教室等に出かけ、友達との再会や趣味を楽しんでもらっている。電話をかける支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮して席を決め、楽しくお互いが話ができるように職員が間に入っている。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設入所された方への面会や、ホーム行事へお誘いなど、関わりを持ち続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意見や思いを聞いてケアプランに取り入れている。	言葉で意思表示が出来る人には、思いや意向を聞き記録し全員で周知している。変化を見つければ声掛けし、側に寄り添い思いを聞いている。困難な人には生活歴を家族から聞き、飲物等は選択しやすいようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から話を聞き、会議で職員間で検討・確認しながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活の流れを考え、状態に応じて過ごされているか観察・把握している。状態の良いときは見守り、無理になってきたことには援助を多く、と検討し支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、毎月モニタリングをしている。ケアプラン更新の際には、ケアマネ・看護職員・担当職員(都合が合えば家族)が集い会議を開いている。	利用者毎に担当職員が評価した情報をもとに、毎月のミーティングで話し合いをしている。介護計画は、利用者や家族の希望を聞き、医師等の意見も参考に原案をもとに、サービス担当者会議で話し合い作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に残し、職員間で情報の共有をしている。会議で一人一人のケアについて確認、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門病院の受診に同行したり、買い物に出かけたり、母親への面会に同行したりしている。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には行政担当者、地域役員、警察署職員、消防署職員の参加があり、事業所の運営に対し協力して頂き地域の中の一人として暮らしていけるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が協力医の方は、月2回の訪問診療がある。過去にほかの主治医を選ばれる方もあったが、その際も家族との協力で受診支援できた。	認知症専門医の受診は、家族と職員が同行している。訪問歯科診療や看護師の利用も希望に合わせている。入居後に24時間の連携体制と訪問診療が利用できる協力医を希望する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護職員や、医療連携体制による契約訪問看護師への報告・相談、指示により支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が付き添い、もしくはすみやかに情報提供している。退院前に情報共有し、ホーム内の環境整備やケアの仕方について決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームで出来ることを説明し、家族の意向を伺っている。看取り期になったときには主治医・家族・職員で話し合いをもっている。	重度化や看取りについて、事業所で行える範囲を家族へ説明し同意を得ている。看取り期には、家族・職員・医師と話し合いを重ね、その都度家族の意向に添った支援をしている。毎日、看護師の訪問も可とし、家族の宿泊には寝具を用意し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修で繰り返し学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。その時に応じて夜間を想定したり、利用者に参加を促したりして変化をつけている。地域行事への参加や運営推進会議を通して地域の方に協力をお願いしている。	利用者と一緒に初期消火訓練や避難訓練を実施し、反省会を行い避難方法を改善している。水・乾パン・救急薬品等の備蓄品は袋に入れ、期限を決めて管理している。訓練に住民の協力が得られていない。	様々な機会に非常時の協力への理解を求め、訓練時に住民の協力が得られるような働きかけを期待したい。

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方は皆人生の先輩であることを念頭に、心身の状況に応じて言葉かけをしている。	一人ひとりの人格を尊重した声かけや入浴・排泄時の対応に配慮している。紙パンツ類は目に触れないようにし、着替えは居室で対応している。居室の表札は希望に合わせて掲示し、顔写真は特定できないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の飲み物は毎日好きなものを選んでいただくというように、選択肢を用意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の方からその日の予定を伝えるのは、全員での外出日や特別な行事のある日だけで、一日の過ごし方は相談しながら決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きなものを着ていただいている。毎日の髭剃り・整髪等、できるだけ本人にしている。いただけるよう声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り・すじ取り・皮むきや、盛り付けを見守りのもと行っていただいている。食後の片づけも分担して行っていただいている。	音楽を聞きながら職員も一緒に食卓につき、仲良し同志の席を用意し楽しみな食事に行っている。希望をメニューに取り入れ、主食の選択も可能としている。食材の買い物・準備・味付けや巻き寿司やお好み焼き作り等の手伝いをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの身体状況に応じて水分・栄養量を摂れるよう記録を確認しながら支援している。制限があっても満足感を考えて一日を通して調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のできる範囲で自分でやっていただき、不十分な部分は職員が手伝っている。		

グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、おむつを使用している方はいない。全員トイレで排泄している。排泄のパターンを記録し、時間で誘導している。体調に応じて紙パンツやパッドを使用している。	トイレに立てる限りは布パンツで過ごせるように、様子を見て声かけで対応している。立てない方は2人で介助し、夜間は紙パンツと大パッドで対応している。入居時に紙パンツ利用者が、排泄パターンの把握でパッドのみになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操を取り入れて体を動かしたり、食物繊維の摂れる食事を提供して、できるだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体状況や個人の意向、医師の指示をもとに毎日～週3回の入浴を実施している。それぞれが気持ちよく入浴できるよう、昼～夕食後までの時間帯で行っている。	職員が対応できる夕食後までの時間帯に、利用者が希望する時間に入浴ができる。入浴後にノンアルコールビールや冷たい飲み物を飲んだり、季節湯や入浴剤で入浴気分を変えたりして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お疲れの様子が見られたり、本人からの希望があれば昼寝をしていただいている。夜間の睡眠に差しさわりのないよう、長くなりすぎないように声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の情報をいつでも見ることができるようになっている。日付・名前を声に出して確認し服薬していただいている。何か変化があれば看護職員に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの状態に合わせて家事仕事をお願いしたり、生け花や習字教室に出かけたりしている。買い物のときに個人的な嗜好品やおやつを選び、購入できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人と話し合い、買い物や散歩、食事や喫茶店への外出を行っている。家族と一緒に出掛けることもあり、外出の準備・帰ホーム後の支援を行っている。	天気が良い日の散歩や日用品の買い物は、その日の希望に合わせて行っている。系列事業所での音楽・体操・習字教室やボランティアが来所時は、外出の機会として参加している。家族の協力も得て、レストラン・喫茶店・美容院等にも一緒に出かけている。	



グループホーム ジョイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で財布を管理している方もいらっしゃるが、家族と相談してお小遣いとして出納管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があれば、時間帯や頻度を考慮し、電話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や写真などを飾ったり、七夕の笹やクリスマスツリーを飾ったりして季節を感じられるようにしている。日差しや室温、音量などは都度調節している。	玄関と居間に季節の花を生け、行事の写真や利用者の作品を居間に飾っている。板張りのトイレは清掃がゆき届き清潔にしている。日に2回換気し、夏はヨシズで日よけし、冬は加湿器を使用して部屋の環境に気配りしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブルは気の合う方同士で座れるよう決めている。一人で過ごしたい様子ならソファに移動したり、テラスのベンチに出たり、居室で過ごしたりされている。孤立しないよう適宜見守り・声掛けを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ダンスや写真など本人のなじみの物を持ち込んでいただいている。	紙細工作品や習字作品を飾ったり、パズルや観葉植物を置いたり自分らしい居室にしている。快適に使い易く過ごせるよう家具・TV・ラジカセ等の配置を支援している。位牌や骨箱を持ち込んでいる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室に目印を設置して、わかりやすくしている。必要に応じてベッドサイドに手すりを置いて、安全に立ち上がれるようにしている。		